

「種子の旅」 その1 植物はどうやってひろがる?!



植物はチョウやトンボのように、動くことはできません。しかし、種子を遠くへ運ぶために、いろいろな方法で分布の範囲を広げていきます。

風に飛ばされたり、動物の体にくっついたり、自分ではじけ飛んだり、鳥に食べられたりして、種子をできるだけ遠くへ運ぼうとするしくみを持っています。

風で飛ぶ種子

風で飛ぶ種子には、タンポポの綿毛のようなふわふわ型と、マツやカエデの種子のように翼（よく）を持ったくるくる型があります。晴れた日に風に遠くまで種子をとばすしくみを持っています（タンポポを観察していると、雨の日は綿毛がしめって重くなるためか、閉じていることがあります。）



マツの種子と翼



トウカエデの種子と翼



タンポポの綿毛

はじけて飛ぶ種子

ハウセンカやスミレ、イスノキなどのように、種子がおしだされたり、はじかれて散らばるタイプです。種子が成熟すると、何らかの刺激によって果実が割れて、皮がよじれ、中の種子がはじけ飛びます。中には10mほど遠くに種子をとばす植物もあるそうです。また、スミレは種子の一部にエライオソームという脂質を含む部分があり、アリがそれを好んで巣まで運ぶことでより遠くに移動するしくみを持っています。



スミレの花と種子



イスノキ

(文責：玉村かおり)